

[普及事項]

新技術名： ニホンナシ「秋泉」の短果枝にジベレリンペーストを塗布すると新梢伸長を促進する（平成28～29年）

研究機関名 果樹試験場 総務企画室 天王分場班
担当者 照井 真

[要約]

ニホンナシ「秋泉」の主枝上に発出した短果枝に対してジベレリンペーストを満開7日後頃に100mg塗布することにより、50cm以上の新梢発生率が高まる。本品種は不定芽からの新梢発出が劣るが、この技術により、側枝の更新が容易となる。

[普及対象範囲]

県内全域の「秋泉」生産者

[ねらい]

ニホンナシ「秋泉」は側枝が枝齢を経るに従い短果枝の発生が少なくなり、生産効率が低下する。そのため、短期間（3～4年）での側枝の更新が必要となるが、「秋泉」は不定芽からの新梢の発出が劣る。そこで、主枝上の短果枝へのジベレリンペーストの塗布による新梢伸長促進効果を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1 「秋泉」主枝上の短果枝に着生した花を開花前に全て摘み取った後、満開7日後頃にジベレリンペースト100mgを短果枝基部に塗布する。
- 2 ジベレリンペーストの塗布により、側枝として利用できる50cm以上の新梢の発出率は大きく向上する（表1、2）。
- 3 ジベレリンペースト処理により発出した新梢は、基部径が太くなるため誘引時に折損するおそれがある（表1、2）。このため、同剤の処理は、発出した新梢の誘引が容易な地面に対して水平±45°の方向に発出した短果枝に対して行う。

[成果の活用上の留意点]

- 1 ジベレリンペーストは、チューブから3mm押し出した量が100mgの目安となる。
- 2 ジベレリンペーストは、弱小な短果枝に塗布したり過剰に塗布すると、新梢が枯死することがあるため使用しない（表2）。

[具体的なデータ等]

表 1 ジベレリンペースト処理が「秋泉」短果枝からの新梢発出に及ぼす影響 (H28年)

処 理 区	処理枝数 (本)	新梢発出率 (%)※	平均新梢長 (cm)	新梢基部径 (mm)
		全体 (50cm以上)		
G A ペースト区	15	100.0 (73.3)	74.9	10.9
無処理区	14	78.6 (14.3)	24.5	7.3

供試樹：「秋泉」／マメナシ 4年生

処理日：H28年5月2日（満開7日後）

新梢発出率：全体；わずかにでも新梢伸長が見られた短果枝の割合
50cm以上；50cm以上の新梢が発出した短果枝の割合

表 2 ジベレリンペースト処理が「秋泉」短果枝からの新梢発出に及ぼす影響 (H29年)

処 理 区	処理枝数 (本)	枯死数 (本)	新梢発出率 (%)※	平均新梢長 (cm)	新梢基部径 (mm)
			全体 (50cm以上)		
G A ペースト区	10	3	100.0 (71.4)	54.3	8.7
無処理区	10	0	100.0 (20.0)	14.1	7.6

供試樹：「秋泉」／マメナシ 5年生

処理日：H29年5月9日（満開8日後）

新梢発出率：表1に同じ

[発表論文等]

なし